

『チャンスを活かしきれず、上位入賞を逃す展開に』



シリーズ名: 2025 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名: 2025 AUTOBACS SUPER GT Rd.6「SUGO GT300 km RACE」 レース距離: 1 周 3,586km×70 周 (251.02km、規定により 16:30 レース終了)

9月 20日(土) 天候:曇り コース状況:ドライ 公式予選:GT500 クラス 12位:1'10.452

スポーツランド SUGO で開催された SUPER GT 第 6 戦は、雨が降ったり止んだりと安定しない空模様となり、一日を通して 20 度前後で過ごしやすい気温となる。

本戦がサクセスウェイト最大の争いとなる中、"菅生の魔物"は、いつ、どこに牙を向いてくるか。

午前中行われた練習走行では、朝方から降り出した雨は止むも、ウエットコンディションから始まり、19 号車は、混走・ 占有時間あわせて、29 周走行し、ベストラップは 22 周目に計測された 1:14.312 で 15 番手タイムとなった。

午後からの予選も曇り空の中、予選途中で小雨の予報となっており、どのタイミングでコースに出て、タイムを出すか、戦略的に難しい判断となる。

予選 Q1 は国本選手のアタック。





Q1 は開始直後に24号車がコースにでるものの、他の車両は様子見。開始1分ほどで16,3号車がコースイン。 開始2分で19号車を含む8台がコースインし、残りの車も遅めにコースインし、残り6分を切る頃には、全車ピットア ウトとなる。

国本選手は3周、車を走らせてタイヤに熱を入れると、残り2分を切った4周目にアタックに入り、1:10.452を叩き出 し、暫定7番手でメインストレートに帰ってきた。引き続き、残り40秒で再びアタックに入るものの、第三セクターでは 自己ベストとなるが、4周目の全区間の自己ベストには届かず、1:10.482となる。その後、各車アタックによりタイム更 新があり、結果、19号車は12番手となり、Q1敗退となりました。

Q1の結果は 39-16-3-23-37-17-1-38-24-14-(以上Q1突破)-8-19-64-12-100 となりました。

Q2の結果は、16-39-3-1-24-23-38-17-14-37 となりました。

以上の結果により、予選結果は 16-39-3-1-24-23-38-17-14-37-8-19-64-12-100 となりました。

























































【予選終了後 坂東監督コメント】



『持ち込みタイヤと路面が自分の想定した感じではなく、グリップが足りませんでした。僕 のミスです。国本選手には申し訳ない。

明日は今日より暖かくなると思うので展開は変わると思います。明日も応援宜しくお願 い致します。

明日の決勝は、予報では雨も上がり、好天の中で行われると予想されます。

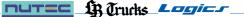
19号車は、表彰台を目指し爆走していきます。皆様の応援よろしくお願いいたしま





















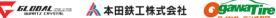
























9月21日(日)天候: 曇/晴 コース状況: ドライ

決勝: GT500 クラス 10 位

厚い雲が覆う中、時折差し込む青い空が見える、スポーツランド SUGO で行われる第 6 戦。

今年、サーキットの路面改修が行われ、前年までの路面データが使えなくなったのが更に決勝戦略を難しくしている。1 周 1 分強で、少しのミスが大きなタイム差となる厳しいコースでもあるスポーツランド SUGO に巣食う魔物は果たして今 年も暴れまくるのか。

決勝前に行われたウオームアップ走行では、20 分間の走行で 11 周、決勝に向けての車のバランスのみをチェックに使 用する予定ではないタイヤを装着し 1'13.041 と 7 番手のタイムとなった。

決勝のスターティングドライバーは国本選手。12番手、6列目からの追い上げとなる。

決勝前の気温/路面温度は 24℃/32℃と、予選からはあまり上がることがなく、レースとしては適温環境となった。

恒例の宮城県警の警察車両が先頭のパレードラップが1週、フォーメーションラップが1周の後、84周と言うゴールへ、 スタートが切られた。

オープニングラップは全車ポジションが変わらず、序盤はトレイン状態でレースが進み、6 周目あたりから 300 クラスに追 いつくと、各車順位が入れ替わる展開となる。9 周目に前を走っていた 37 号車をパスして 11 位に、さらに 10 周目に 14 号車をパスして 10 位に、11 周目に 23 号車をパスして 9 位にポジションアップする。

500/300 車両が玉石混交状態でコースが混雑する中、前の 64 号車に食らいついている 19 号車は、300 クラスを パスする段階で、64 号車との差が広がるものの、300 クラスの集団から抜け、17 号車が先頭の 5 位争いの最後尾に つくと、15 周目に 1 号車をパスして 8 位に。更に、4 位だった 3 号車のペースが落ちると 17 号車から続々と 3 号車を パスし、19 号車もそれに続くも、19 周目に 300 クラス車両の撤去による FCY が出てしまい、回収完了まで時間が掛 かってしまう。 FCY が出た段階での 19 号車の順位は 8 位だが、7 位の 64 号車の背後に付いていた。 22 周目の FCY 解除時は、前の 64 号車の方がうまくスタートを切った為、順位が変わることは無かったが、3 号車を狙う 64 号車の後 ろを様子見ながら抜くタイミングを図っている。

25 周目までに 3 号車をパスして 7 番手に、1/3 を過ぎて、ピットに入る車両が出る中、19 号車はコースに残り、31 周目にピットイン。フルサービスと阪口選手にドライバーチェンジを行い、コースイン。アウトラップ中に順位を落とし、33周 目に暫定 15 付となるも、1 回目のピットイン組の集団の中の最後尾となっただけで、8 番手の 8 号車を先頭とした大 集団となり、19 号車は 38 周目には 12 号車をパスして 14 位となり、 更に追い上げを図ると、 39 周目には 3 号車を パスして 13 位、44 周目に 1 号車をパスして 12 位、

40 周目に 300 クラスの車両がピット出口で止まったために 2 度目の FCY が出る。 FCY が出た段階の 19 号車は 12 位だが、9 位の 37 号車、10 位の 100 号車、11 位の 14 号車は目と鼻の先となり、更に後続には 12 号車、1 号 車が付くと、47 周目のリスタート時に、後ろの 12 号車が 19 号車をパスし、13 位に順位を落とすものの、直後にメイン ストレートで 300 クラス同士のクラッシュに 64 号車が巻き込まれる大クラッシュが発生、即座に SC が入ることとなった。 のち 50 周目に赤旗が出てレースが中断することに。中断時の 19 号車の順位は 11 位。

中断時の順位は以下の通り。39-17-24-16-8-23-37-100-14-12-19-1-3-38-64











































午後4時にSC先頭でレース再開。レース最大延長時間が4時半までとなるので、残りは30分のタイムレースとなる。 セーフティーカーランが 4 周あった後、残り 21 分 40 秒で再スタート。

順位は変わらないまま、14 台の隊列でレースは進むも、56 周目に 300 クラスがコースアウトし、一部コースに残ったた め、残り 18 分で再び FCY が提示される。 残り 14 分 30 秒で FCY が解除され、レース再開。 直後、19 号車は前の 12 号車をパスして 10 番手にあがる。

4番手より数珠つなぎで 12番手までつながっているところに 300 クラスとのからみも出てきて、激化するレース展開。19 号車は混戦の中、後ろの1号車にパスされて11位となるも、阪口選手は19号車をチェッカーまで導きました。

※レース後、23 号車のドライブスルーペナルティ未消化(40 秒)の判定が出たため、19 号車は繰り上げ 10 位とな りました。

レースは、ポールポジションの 16 号車と 2 位の 39 号車が飛び出すも、6 周目に 39 号車が 16 号車をパスしてトップ に躍り出ると、2 位以下を引き離しにかかるも、序盤から追い上げてきている 24 号車が 1 回目の FCY 解除までに差 を 1.3 秒まで縮め、24 周目のホームストレートでアウトから 39 号車をパスし、トップに躍り出るも、26 周目に 39 号車 が再びトップを取り返す。その後、39 号車は後続を引き離して、ピットインするも順位が変わらずトップのままで戻ったも のの、3回目の FCY 後に再び猛追してきた 24号車が最終ラップで 39号車をパスしてトップに出ると、チェッカーを受け ました。2 位は 39 号車、3 位は 17 号車となりました。

決勝の結果は、24-39-17-16-37-100-14-8-1-19-38-3-23-12-(以下リタイア) -64 (正式決定順位)







































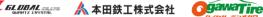






















決勝コメント

【坂東監督】



『悔しい。

しかし、横浜ゴム装着の 24 号車が勝ったのはスタッフや横浜ゴム工場、チームの努力 を知っているだけあって、嬉しかったです。力強い横浜ゴムでした。僕らも知ってるタイヤだ けに悔しいのと嬉しいのと両方です。

AP レース前にテストもあるので、次戦のオートポリスで表彰台を目指し、爆走していきま

皆様のご声援、誠にありがとうございました。』

【国本選手】



『予選ではタイヤが路面コンディションにうまくマッチせず、自身のミスも重なり 12 位から のスタートとなりました。上位を狙えるポテンシャルを十分に発揮できなかった点は大きな 反省材料です。

決勝は非常に荒れたサバイバルレースとなりました。そのなかで集中力を切らさず、追い 上げのレース展開を見せることができました。

しかし、こうした波乱のレースだからこそ、大量得点のチャンスを活かすことができなかった のは悔やまれる結果です。

次こそ良い結果を残せるよう、チーム一丸で臨みます。』

【阪口選手】



『菅生ラウンド結果は予選 P12、決勝 P10 となりました。土曜から雨が降り路面が何 度もリセットされ、且つ路温が低い中でのレースとなりました。想定していた路面状況とは 外れてしまいタイヤ選択が正しいとはいえない状況でした。予選も下位に沈んでしまい、 決勝も序盤こそペースがあり何台かバトルをし抜いていくことができましたが 10 位までで した。チャンスのラウンドだっただけに非常に悔しいレースとなりました。自分達の考えや準 備が至らなかったところを反省して、次戦 GT オートポリスも頑張ります。

今回も応援して頂きありがとうございました!』





















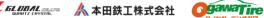
























次戦は10月18-19日、大分県オートポリス ウエイトも軽いですし、今シーズン最後のチャンスだと思っています。是非サーキットにきてください。 皆様の今回も応援、誠にありがとうございました。

SUPERGT

https://supergt.net/pages

BANDOH

http://www.bandohracing.com/































